

「本当のしるし」

マタイによる福音書 12 章 38-45 節

イエスさまを認めたくない人たちは、決まってこう言います。「しるしを見せてください」と。決定的な証拠を見ない限り我々は信用しない、というのです。

それに対し、イエスさまは「よこしまで神に背いた時代の者たちはしるしを欲しがる」と言われました。「よこしまで神に背いた時代」は、別の訳では「悪い、姦淫の時代」と訳されています。「神に背いた」と訳されている言葉は、ただ「神さまに背いて罪を犯している」ということではなく、姦淫の罪を犯している、関係を裏切っている、ということを示す言葉が用いられているのです。

イスラエルと主なる神さまとの関係は、しばしば結婚になぞらえられてきました。神さまがイスラエルの民を選び、彼らをご自分の民とし、神さまが彼らの神となってくださったという契約の恵みは、私たちの結婚の誓約と重なり合うのです。それゆえに、イスラエルの民が神さまに背き、他の神々、偶像の神々を拝むようになったことを預言者たちは姦淫の罪として厳しく責めたのです。それと同じことをあなたたちもしていると、イエスさまは指摘されたのです。

では、どういう意味でしるしを求めることが神さまへの裏切りになるのでしょうか。その前に、まずイスラエルの民が、なぜ主なる神さまを捨てて、他の神々へと走っていったのか、ということを考えてみたいと思います。

彼らが拝むようになった他の神々は、バアルに代表されるカナン地方の農耕の神々でした。イスラエルの民は、カナンの地に定住し、畑を耕して生活するようになると、次第にこの神々を拝むようになっていきました。理由は簡単です。バアルの神の方が、作物の豊作という目に見えるしるしを与えてくれると思ったからです。要するに人間の求めているご利益を与えてくれる神に彼らは走ったのです。

ここに、「しるしを求める」ということの本質があります。しるしを見たら信じる、という時に私たちが求めているしるしは、私たちの求めに応じたしるしです。つまり、神さまが自分の願いを聞いてくれるのかどうか、値踏みをするようなものです。イスラエルの民は、主なる神さまを値踏みして、カナンの神々の方が自分の願いをきいてくれそうだと思って、そちらに走ったのです。それが彼らの姦淫の罪でした。つまり、しるしを求めることと姦淫の罪とは、一見全く違うことのように見えて、実は不可分に結びついているのです。

しかし、イエスさまが私たちとの間に示されているのは、このようなしるしではありません。イエスさまが私たちとの間に打ち立てようとしておられるのは、愛と信頼の関係です。相手が自分の期待にどれだけ応えてくれるか、ということによるのではない、もっと深い交わりです。その交わりのために与えられるただ一つの「しるし」、それがイエスさまが「ヨナのしるし」と言われた十字架と復活の出来事です。

預言者ヨナは、二ネベの町に神の怒りによる滅びが迫っていることを告げることを神さまに命じられましたが、その命令に従わずに船に乗って逃げ出しました。しかし嵐に遭い、海に投げ込まれて大魚に呑み込まれ、三日三晩その腹の中において、陸地に吐き出されたのです。それと同じように、イエスさまも、三日三晩大地の中にいることになる。それは、イエスさまが十

十字架につけられて殺され、墓に葬られて、三日目に復活するということを指しています。

これこそがメシアの到来に伴う決定的で、唯一のしるしだと言われるのです。イエスさまは、さまざまな奇跡を行われましたが、その奇跡をもってご自分がメシアであることを証拠付けようとはなされませんでした。なぜなら、十字架と復活こそが「しるし」だからです。

このしるしは、人々が自分の願いによって求めているしるしとは全く違うものです。自分の願いに合う神であるかどうかを人間が確認するためのしるしではなく、神さまがご自身をおしになるために人間に与えられるしるしです。そしてこのヨナのしるしには、神さまが、私たちとどのような交わり、関係を結ぼうとしておられるのかが示されているのです。

それは、第一に、主イエス・キリストが、私たちのために、私たちの罪を背負って十字架にかかって死んでくださったということです。それによって私たちの罪が赦され、その罪の赦しの恵みによって神さまは私たちとの関係を結ぼうとしておられるのです。

第二に、主イエスが死者の中から復活させられたことです。それは神さまの恵みが死の力に勝利したということです。神さまが私たちに与えようとしておられる交わりは、この死に勝利したキリストと共に生きる交わりなのです。

罪の赦しと、死に対する勝利、それが、ヨナのしるしであるキリストの十字架と復活によって私たちに示されていることです。神さまは、この恵みによる関係を私たちとの間に打ち立てようとしておられるのです。この関係は、私たちが、自分の願いや期待にどれだけ応えてくれるかという思いでしるしを求め、証拠を求めていくところに生まれる交わりとは全く違う交わりです。

イエスさまは願っておられます。ヨナが神さまへの背きの罪を赦され、新しい命を生きただうに、私たちが新たな歩みを始められることを。